

週日の説教

金 大烈 神父 2009年11月26日(木)

《終末》

「地球の終末」とか、「人類の終末」という言葉に関心のある人が多いですね。カトリック信者でなくても、超能力を持っていると言われていたり、預言の能力を持っているという人が、ずっと前から、地球の滅亡する日について話しをしてきました。初代の教会の人々も、イエス様が亡くなってからごく近いうちに、地球の滅亡、人類の滅亡が来ると信じていました。そして、終末のことを意識して、自分達が生きているうちに、イエス様が弟子達を連れて現れると信じて信仰の生活をしていたことが、資料を調べてみると分かります。しかし、終末は、まだかまだかと待たれたまま、何百年もの時間が過ぎました。

さあ、イエス様が亡くなってから2000年くらい経ちましたよね。2000年後を生きている私たちは、この終末についてどのように思えばよいのでしょうか。もし、信者でない人々から「聖書の中に終末のことが書かれていると聞いたのですが、カトリック教会ではどのように教えているのでしょうか。」と聞かれたら、皆様は、どのように答えますか。聖書のとおり、今日の福音(ルカ 21:20-28)で話されたようなことを全部覚えて、ボタンを押したら話す機械のように答えるつもりでしょうか。

もし、そのように質問をされたら、このように答えてください。「聖書で話されている地球の、人類の、終末のことは、誰にも分かりません。それは御父しか分かりません。ですから、そのような質問には私は答えられません。」とはっきりおっしゃってください。そして、「ただ御父は、その終末が来る前に、いろいろなしるしが現れるとおっしゃっています。その中のひとつは、人類全体が、人間が人間を殺すという一番大きい罪を犯す雰囲気になることです。そのようになったときには、人類は必ず滅びるでしょう。」という答えをなさってください。そしてそれ以外には、テレビなどの、いつ滅亡が現実になるか、という話は全て嘘だと思って捨ててください。テレビの番組は、視聴率を高めるために、とんでもないことを放送しています。有名な人たちがそのような話をしたら、テレビを見ている人々がだまされるのは、当たり前です。そういうだましが結構あります。絶対、そういう話に流されないようにお願いします。

では、カトリック信者として私たちはどのように考えればよいのでしょうか。

イエス様がおっしゃった「いつかこの世が滅びるかもしれない。」ということ意識してください。しかし同時に、「もし私たちが上手に歩めれば、絶対この世は滅びない。」という信仰も持ってください。そして、その全体的な滅びについては、あまり気にしないでください。怖がらないでください。恐れなくてください。なぜなら、その前に私たち一人一人の終末が来るからです。個人の死も、やはり終末です。しかし個人の死は、カトリック信者の立場では希望ですよね。終わりではなくてイエス様が約束された御国に入ることです。ですから、その御国を希望しながら、今の世界で一生懸命に信者らしく生きればよいのです。それで十分です。この世が終わったらどうなるか、という心配は本当に愚かな恐れです。今、私たちに任されたこの世をどのような気持ちで一生懸命に生きるか、それができれば何の問題もないと思います。

さあ皆様、結局、今日の福音の話も、今を一生懸命に、意味を持ちながら生きなさいという意味ではないかと思えます。

ありがとうございました。